

第1回山口県立大学将来構想検討委員会の概要

- 1 開催日時 令和3年8月4日(水) 13:30~15:45
- 2 開催場所 山口県立大学北キャンパス3号館3階 C301教室
- 3 出席者 委員 13名、事務局 13名
- 4 議題 (1) 委員長の選出について
(2) 山口県立大学の現状と課題について
(3) 山口県立大学に求められるニーズについて

委員からの主な意見

- ・今、大学は大変な変革の時代にあり、コロナ禍も踏まえ、大きく授業、研究のあり方も変わろうとしている。
- ・大学の使命としては、教育、研究及び地域貢献の3つの柱があるが、やはり大学は学生あっての存在であり、若い学生たちの将来を見据え、卒業後の人生にしっかりした教育等を提供できる場であって欲しいと考える。
- ・欧米をはじめ、東南アジアの発展途上国と言われる国々など、様々な国に足を運んだが、DX、デジタル化は、日本が発展途上国と思っている国々でもすごい勢いで進んでおり、今のままでは日本の将来が危ないという実感を抱いた。
- ・卒業時の就職率といった表面的に見えてくる成果や数値にこだわらず、すぐに役立つようなことだけではない、一人一人の学生自身が自分の頭で考えられるような学びを大学のあるべき姿として設定できればよいのではないかと。
- ・国際化についても、従来であれば欧米のことだけを見ていればよかったが、現在、アジア、アフリカ等の様々な地域に国際という言葉の意味が広がっており、大学が持つ哲学をカリキュラムに反映させていく必要がある。
- ・最近顕著に技能実習生の方が増えているが、地域によっては専門的な日本語教育の知識を持つ日本語教師はまだ少ない。県立大学は日本語を教える資格を持つ人も育てられており、そのような知識を学ぶ学生の皆さんには、ぜひ実践の場に参加いただき、同じ地域に暮らしている外国人に会って、彼らの声を聞き、自分達で課題を見つけ、どう解決すべきかを考えていただきたい。
- ・国際化は今まで外に目が向けられていたが、同じ地域で隣を見れば、日本で働いている外国人の方がいらっしゃる。県立大学には、多文化で暮らしている地域がどうすれば共生していけるか、考えることができる人材を育成して欲しい。
- ・前身の山口女子短期大学の時代には保育科が設置されていたこともあった。現在、県内では9大学(4大学・5短期大学)が保育士の養成を行っているがいずれも私立である。

- ・ 県として、県内の子どもたちの保育に関わる人材養成に基軸を持つという意味で、保育士を養成する学科の設置を希望したいが、時間がかかる問題でもある。まずは、県立の大学として9大学との役割分担やかかわりを明確にしていくことから始め、将来的には子どもたちを育てる環境づくりへの貢献を期待する。
- ・ 保育士の資格取得を希望する生徒が九州や広島、関西圏へ進学してしまうと帰ってくる確率は低くなり、県内での進学先の充実が望まれる。
- ・ 県立大学は尖ったところがなく、特色があまりないため、生徒の目を引く力を入れた部分が出てくると志望者も増えるのではないか。生徒に勧めやすいという点では、徳山大学が設置を検討されており全体的な調整は必要かもしれないが、DXに関する情報系の学部が期待される。
- ・ 幼児教育・保育の人材不足に関し、県立大学に関わることも期待される。
- ・ 社会福祉法人は、地域において公益的な活動に取り組む役割が義務付けられているが、地域を支えるためには、医療、学校、企業など様々な主体と連携する必要がある。
- ・ 東京都や都会から地方へという人の流れも見られ、価値観や生きがいといったものに大きな変化が生じている。県立大学には、ICTやAIといったものが進もうとも、地域や社会、人間を大事にした教育、人が人であるための芸術や理念、心といったものを育む教育を大切にしていきたい。
- ・ コロナ禍をきっかけとして、教育界におけるDX化は予想以上に急ピッチで進んでおり、DX人材養成の観点からも、教育方法のDX化の観点からも、それをどう次の大学改革につなげるかシナリオを描く必要がある。
- ・ 地方創生や地域の再生に対する高等教育機関の位置づけ・役割の大きさを感じており、住民や行政の期待にどう応えていくのかが、特に公立の大学に与えられた大きな命題となっている。
- ・ 県立大学は学生の9割が女性ということだが、人口減少の要因としての女性の県外流出を考慮すれば、女性に選ばれる大学、女性が活躍する大学はメリットであると考える。
- ・ これからの時代は、政策や事業を組み立てるとき、前例踏襲主義や経験、勘によって組み立てるのではなく、データ分析やエビデンスに基づく必要あり、そのような知識の習得に取り組む必要がある。
- ・ 個々の課題を解決するために自身の創意工夫で色々なことにチャレンジできる教育が期待される。
- ・ 現在、様々なデータを活用して、ビジネスチャンスを生み出したり、DXにより生産性の向上や効率化を図ることが求められるが、県内の企業では、危機感はあるがそういった視点を持つ社員がいないという声を聞く。県立大学は文系の学生かもしれないが、データを活用し、プロセスにおいて改善すべき点に気づく感性は文系・理系に関係ないものであり、デジタル人材の育成に取り組んでいければと考える。

- ・「山口県新たな人づくり推進方針」に幼稚園教諭・保育士等の資質能力の向上、確保・育成が必要とされており、学長は山口県乳幼児の育ちと学び支援センターの所長も務められている。
- ・現在、幼稚園教諭の不足などの課題もあるが、子どもたちのためには教師の質の向上が大切であり、県立大学には、二種免許が多い幼稚園教諭の一種免許への上進などで貢献が期待される。
- ・看護学科に令和4年度から設ける予定の看護探求、公衆衛生看護、養護教育の3コースは、実践力のある人材の育成という視点であり、医療現場の意見に適切に対応している。
- ・新型コロナウイルスへの対応においては、以前、県立大学で養成していただいた感染管理の認定看護師が各医療機関で力を発揮されており、県内の研修機関において、さらなる養成を望む声がある。
- ・県立大学では、今年度から認定看護師を対象に感染症関連の特定行為の研修を始められているが、感染の分野では、特定行為研修も組み込まれ、認定看護師の資格が取得できる研修制度（認定看護師教育課程B課程）があり、ぜひ県立大学で開設していただきたい。
- ・障害者就労施設も経営し、福祉に携わっているが、障害のある子どもが教育を受けて大きくなり、就労施設など福祉の枠組みに移ったとき、対応される福祉の方が、補う・支援するという点に重きを置いた対応をされていることにギャップを感じる。
- ・その子をさらに伸ばすという教育の視点が少ないと感じており、一人の障害のある人間を一生を通じて看れるよう、学生の段階から、教育と福祉の両方の視点を持った人材を育てていただきたい。
- ・県内の事業者と向き合う中で、ニーズとして大きいのは人材の確保である。山口県は後継者不足が全国で3番目に悪い状況にあり、事業の継承などで苦慮しており、経営人材の確保が求められる。
- ・また、専門人材に対する求人ニーズは高いものの、求職ニーズが少ないなど、地域の企業で活躍する人材の育成や卒業生を県内に循環させるための取組が期待される。